

授業科目名	【Gカリキュラム】 - 【EFカリキュラム】 現代社会と経営Ⅱ	その他参照	開講年次	【G】 - 【EF】 2	単位数	【G】 - 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-) / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目 (-・-・-・-)					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目 【EF】教員の免許状取得のための (-・-・-・-) 科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	現代社会という魔界とどう戦うか2		担当者	野呂 一郎		
授業概要	<p><b>【概要】</b> 現代社会の特徴は、先進国の経済が危機に瀕していることである。あらゆる市場が飽和してしまい、成長分野が見いだせないからだ。日本も例外でなく、経済のどん詰まり状態はこれからも続くだろう。どうしたらいいか。新しい価値を創ることだ。まずはナレッジ・マネジメントという理論を学ぼう。しかし、本講義はテーマの性質上、理論よりも、現実を重んじる。そして普通の事例は扱わない。AKBとか、カイジとか、プロレスでも大仁田とか、タイガーマスクとかだ。そう、価値創造=非常識ということなのだ。まずは、キミの常識を破壊することから始めよう。その他、新しい価値創造に関する最新のテーマを扱う。なお、企業事例は最新のものに置き換わる可能性がある。</p> <p><b>【到達目標】</b> 価値創造について、あなた独自の感性を開発すること。</p>					
履修条件	経営学関連の基礎科目(経営学概論、経営管理Ⅰ)をすでに履修していることが望ましい。					
教科書・参考書	<p><b>【教科書】</b> 「産業心理と経営学」北大路書房 野呂ほか著</p> <p><b>【参考書】</b> 「ナウエコノミー -新・グローバル経済とは何か-」学文社 野呂一郎著</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス—本講義のすすめ方— 予習：指定資料を読んでくる		復習：現在の企業の在り方と講義の内容を対比する			
2	価値創造とは何か 理外の理=非常識が常識になる時代 予習：指定資料を熟読 / 予告企業事例を考える (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
3	現代におけるソフトの価値 予習：指定資料を熟読 / 予告企業事例を考える (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
4	事例研究：IBM はなぜハードを捨てたのか 予習：指定資料を熟読 / 予告企業事例を考える (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
5	事例研究：日本企業の価値創造における問題点 最新事例から 予習：指定資料を熟読 / 予告企業事例を考える (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
6	ナレッジとは何か 予習：指定資料を熟読 / 予告企業事例を考える (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
7	ナレッジ・マネジメントとは何か 予習：指定資料を熟読 / 予告企業事例を考える (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
8	ナレッジ・マネジメント 事例研究 予習：教科書 157~177 頁 予告企業事例精査 (120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
9	ナレッジ・マネジメントの応用 ～どう君の人生に価値をつけるか～ 予習：教科書 42~46 頁/予告企業事例精査 (120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
10	モチベーションと価値創造 予習：教科書 41~51 頁/予告企業事例精査 (120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
11	グローバルな価値創造戦略とは 予習：教科書 181~187 頁/予告企業事例精査 (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
12	IoT時代の価値創造 予習：教科書 188~205 頁/予告企業事例精査 (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
13	異文化コミュニケーションと価値経営 予習：教科書 203~210 頁/予告企業事例精査 (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
14	ナレッジ・マネジメントの最新潮流 予習：配布資料の熟読、課題検討 (計 120 分程度)		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
15	総括と学習到達度の確認テスト 予習：教科書のこれまでの講義に対応するページを読み直すこと		復習：学説の再理解/提示事例の再検討 (計 120 分程度)			
評価方法	受講態度、確認テスト等の結果を総合考慮して成績を評価する。(受講態度 30%・学習到達度の確認テスト 70%) 確認テストは概念を適切に理解して、自分の言葉で表現しているかを主にチェックする。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、確認テスト欠席など、評価不能の場合には「F」とする。					
その他	※G 刈：法【-】 法【-】 情【-】 / EF 刈：法【-】 法【-】 経【選択必修(β)】					